

第 1 回小牧市立第一幼稚園のあり方に関する検討部会 報告

1. 日 時 令和 2 年 7 月 6 日(月) 午前 1 0 時から

2. 第一幼稚園のあり方に関する意見交換

※主な意見は以下のとおり

- 今後のあり方を検討すると言っても様々な要素が複雑に絡み合っているため、整理して考えないといけない。
- 第一幼稚園は市が理想とする教育研究などを具現する場であると思う。
- 特徴ある幼児教育を行う幼稚園のシンボルマーク的な位置づけにできると良いのではないか。
- 園児数が減少していると問題視しているが、他の私立幼稚園と比較して、給食や送迎バスを実施していないにも関わらず、この園児数を確保できていることは、ある意味、第一幼稚園の教育方針が支持されている成果だと思う。
- 以前は、保育料の面で有利であったが、保育料無償化で私立との差がなくなった今、質や特色で差をつけないといけない。
- 共働き世帯や核家族が増加している近年は、保護者のライフスタイルも変化しており、時代のニーズに合わせて認定こども園化するのも 1 つの手段だと思う。
- 過去の認定こども園化に向けた説明会において、保護者からの不安の声があるのは理解できる。幼稚園から認定こども園への移行の場合、保護者へは従前の幼稚園と変わらないと説明するものの、実際のところ、幼稚園部門と保育園部門の合同保育となり、雰囲気が変わることはある。
- 同じ施設の中で保育しているので、時間の経過とともに、違和感は徐々に無くなってくると思う。移行するまでに、一定の移行期間は必要だ。
- 公立園として幼児教育の中核を担い続けることは、幼稚園であっても認定こども園であっても可能であると思う。
- 2040 年以降の将来的な子どもの減少が予想されている中、多額の費用をかけ、認定こども園化することが本当に必要なのかということも考えないといけない。
- 幼稚園、認定こども園の違いは何か、できることとできないことは何か、

あるいは待機児童についても中長期的な視点で分析していく必要があるのではないか。

- 令和2年4月からスタートした預かり保育は、当初は新型コロナウイルス感染症の影響等もあったが、7月から希望者が増えてきた。今後も保護者ニーズに応えるため、可能な限り充実していきたいと考えている。
- 「幼稚園だから」という枠にこだわらず、幼児教育という考え方や預かり保育を開始するなど、今後も改善し、間口を広げていくといいのではないか。